
罰当たり

ゆずき

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
罰当たり

【コード】
N7007B

【作者名】
ゆずき

【あらすじ】
事故にあったオレを助けてくれたのは、不思議な狐の神様でした。

俺は、事故にあった。

いきなり左折してきた大型トラックに、衝突…するはずだった。

「おいつ、大丈夫だったか？」

「おお…村田か…」

「いきなりだったもんで、テンパっちゃってなあ…会社には、一応連絡しといたよ。」

「サンキュー。でも、オレはこの通りかすり傷だけですんだから、会社にはすぐ行けるよ。」

そう…オレは、かすり傷だけですんだ。

医者にも驚かれたほどだった。

死をまねくほどの、大事故だったのに…

「でも、まあとりあえず、入院することにならなくてよかったな。」

「村田…、まただよ。」

「何が？」

「オレ、また助けてもらったんだ…神様に。」

オレは確信している。

オレの身におきたすべての事故を助けてくれたのは、神様なんだ。

「そういえば、小学生の頃にベランダから滑って落ちた時も、高校の時にバイクにぶつかった時も、おまえは信じられないほどの軽傷だったよな。」

「全部、神様が助けてくれたんだ。」

「おまえ、いい年してまだ神様とか信じてんのか？」

信じてる…

だって、死ぬって思った時にいつもかすかに見えるんだ。

赤衣着物の裾が…

それが、いつもオレの体をすーって持ち上げて、助けてくれるんだ。過去の事故でも、今回の事故も…。

「あつ、ここのほこら、懐かしいなあ。」

「そうだよ。覚えてない？このほこらには、本物の狐の神様がいるって、噂になっただろ？うわっ、ひでえなあ…」

ほこらは、めちゃくちゃに荒らされていた。

そういえば、覚えている。

オレの通ってた高校の通学路の途中にあるこのほこらには、本物の狐の神様がいるって、一時期噂になったなあ…。

あつ…

どくん…

嫌な予感がする…

気持ち悪い…

「村田…オレ、もう帰るわ…今日はありがとな。」

「どした？顔色悪いぞ？気をつけて帰れよ。」

「ああ…じゃあな。」

オレは、速足で帰った。

…間違いない…

あのほこらの石と石の間に、赤衣着物の切れはしが挟まっていた…オレをいつも助けてくれた、赤衣着物の神様は、あのほこらの神様なのか…？

それに、あの嫌な感じ。

過去に何かがあった気がする。

あのほこらで…

その夜、オレはなかなか寝つけなかった。
あのほこらが気になって、どうしても眠れない。

ガラガラ…ガシャーン…

なんだ？こんな夜中に…

誰かが、こんな時間に大掃除でもしてるのかな…

ガラガラ…ガシャーン…

…！！

オレは、急いで家を飛び出した。

思い出した…

オレは、ほこらの噂がたった時、本当に神様がいるのか試すために、あのほこらを荒らしたんだ…

荒らしたら、神様が罰を与えに来そうな気がして…

あの時、オレは毎日が退屈で、別に死んでもいいやって思いながらあんなコトをしてしまった…

なのに、今は神様が罰を与えるどころか、オレを助けてくれる。
あんなにヒドイことしたのに…

「あんなことをして、すみませんでした。」

オレはほこらに手を合わせて、本気で謝った。
反省してる…

反省してる…？

誰かの声がした。

ふと前を見ると、赤いボロボロの着物を来た、狐にも人間にも見えるような神様が…

「わたしは、あなたに罰を与え続けてきました。あの時のあなたは死にたいって思っていたので、生かしてあげ続けたんです。」

「もしかして、それが罰…?」

「ええ。でも、もうそんな必要はないみたいです。あなたは本当に反省をしているようです。ならば、もうこれで罰はもう与えませ
ん。」

「えっ…うわあっ!!!」

『3月23日、朝のニュースをお伝えいたします。』

昨晚、山中のほこらの前で、男性の遺体が発見されました。

遺体には、赤い着物のような布で首を絞められていることから、警察は自殺とみて調査中です…』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7007b/>

罰当たり

2010年12月8日14時29分発行